



魅力あふれる街 とよなか

豊中市は、神崎川を隔て大阪市の北に位置し、東は吹田市、北は池田市・箕面市、西は兵庫県の尼崎市・伊丹市に接しています。人口は約39万人、気候は四季を通じて温和で雨量の少ない瀬戸内式気候です。市域は東西6km、南北10.3km、面積36.6km²で、市の全域が市街化区域となっています。

市内は、国内線の基幹空港である大阪国際空港をはじめ、鉄道、高速道路が縦横に走り、本市はその利便性の良さから大阪都心近郊の住宅都市として発展してきました。また、高校野球をはじめ、高校サッカー・ラグビーの第1回大会が本市で行われるなど「高校スポーツ発祥の地」として知られています。さらに、大阪大学などの教育機関があり、「文教都市」としての顔を持つなど、多彩で魅力あふれる街です。

本市の消防体制は、1本部、2署、7出張所、407人の職員で組織され、14分団、575人の消防団員とともに市民の安心・安全を確保しています。

救命力の向上を目指して

本市は、「世界一安心・安全のまち」を目指すべく、平成22年1月に「救命力世界一宣言」を行い、市民、事業者、救急隊、地域医療の連携によって命を救う力「救命力」を高める取組を進めています。特に応急手当の普及啓発に力を入れており、平成22年度から毎年約2万人以上の方が救命講習を受講できる体制を整えています。

また、市内全小学校の5、6年生を対象に「ジュニア救命サポーター事業」を実施し、学童期から「命の大切さ」「応急手当の必要性和重要性」を伝えるとともに、人形を使った心肺蘇生法とAED（自動体外式除細動器）の使用

方法を指導しています。平成23年度からは、救急課に救急普及啓発係、救急高度化係を設置し、更なる「救命力」の向上



平成22年1月に行われた「救命力世界一宣言」

大阪府 豊中市消防本部

大阪府 豊中市消防本部
消防長 谷口 伸夫



を目指しています。

そのほか、市民力・地域力を活かした制度として、地域において救急事故や大規模災害などが発生した際に、応急手当や消防活動への協力をお願いする「市民救命サポーター制度」及び「消防防災協力事業所制度」を展開し、市民と事業者との協働による防災力の向上を図っています。



ジュニア救命サポーター事業

災害に備えて

本市は、NBC災害や航空機災害などの特殊災害に対応するため、全ての出張所に特殊災害対策専門班を設置し、特殊災害に関する知識・技術の習得に努めています。また、災害時における要援護者対策として、「一声（ひとこえ）訪問」を定期的実施しています。この事業は、要援護者の実態を把握するため、署員が高齢者や障がい者宅を訪問して防火対策や災害時の避難方法などについて相談・指導を行うもので、訪問により得た要援護者情報を活用し、災害時に適切な救護を行える体制を構築しています。

人材育成の面では、昨年10月に国際消防救助隊の登録隊員が中心となって、近隣14消防



倒壊建物等の安定化技術（ショアリング）の研修本部との合同救助訓練を実施するなど、各種訓練、研修の充実強化に取り組んでいます。本年4月には「豊中市消防本部人材育成実施計画」を策定し、採用時からの計画的な人材育成に努めているところです。

おわりに

更なる救命力の向上、消防体制の充実を図るため、市民・事業者の協力のもと、今後も様々な取組に挑戦してまいります。